

感染症そのII

コロナの時代です。感染症についてあまりにも無知なことに気付き、少し勉強してみました。感染症の歴史は古く、紀元前のエジプトのミイラから天然痘の痕跡が見つっています。その後も、中世ヨーロッパで人口の3分の1が死亡したといわれるペストや、1918年から世界中で4,000万人が死亡したといわれるスペイン風邪が流行しました。ほかにも、ハンセン病、梅毒、麻疹（はしか）、コレラ、チフス、ポリオ、ウエストナイル熱など、さまざまな感染症のパンデミック（世界的大流行）は、多くの人命を奪うとともに、社会経済にも大きな影響を及ぼしてきました。

数ある感染症のなかでも世界規模で長年にわたり流行している、結核・エイズ・マラリアは「三大感染症」と呼ばれ、地球規模の問題として世界的な支援が呼びかけられています。続いては、世界の感染症のなかでも代表的な疾病について紹介します。

「死の病」と恐れられたエイズですが、近年、治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を受ければ免疫力を落とすことなく、通常的生活をおくるのが可能になっています。エイズ発症前にHIV感染を発見できれば、ほぼ確実に予防できるようになってきていることからHIVの早期発見がますます重要になってきています。

マラリアの歴史をひもとくと、アフリカにおける霊長類の人獣共通感染症としての起源を持ち、時代的には先史時代から21世紀にまで及んでいます。

世界の三大感染症のうち「結核」や「マラリア」は、日本にも昔から存在していた病気です。前述の通り、結核は明治初期まで肺結核を指す病名として「労咳（ろうがい）」と呼ばれていたほか、日本の古典などで出てくる瘧（おこり）とは、大抵がマラリアを指していたと言われています。また、江戸時代には「天然痘」や「コレラ」「梅毒」などが流行し、たくさんの命が奪われました。

原因となる病原体や感染経路が異なるため、予防

方法はそれぞれ異なりますが、感染症のもっとも基本的な予防対策は、手洗い・うがい・マスクです。そして、情報が氾濫する現代においては、正しい情報に基づき落ち着いて行動することが大切です。